

市民の皆さんに聞きました

素敵な広報には何が必要？



今月から「広報なんこく」が一新しました。そこで今月の特集は『素敵な広報には何が必要？』です。紙面刷新にあたり広報委員会では、もつと市民の皆さんの意見を取り入れることが大事だと考え、二月二十四日に、植野純子さん、紙井泰典さん、山本桂さん、中司滋寿子さん、細木隆夫さんの五人の市民の方に参加していただき、座談会を開催しました。この座談会を中心に、町でいただいた皆さんの声を紹介します。

内容充実で月一回に

田岡広報委員長（以下委員長）
四月号から広報の内容を充実して月一回発行することに
なります。

広報委員会では、新しい広報には市民の皆さんの生の声をしっかりと載せていこうと考え、座談会を開催することに
なりました。本日お集りいた

だいた五人の市民の代表の方には、それぞれの角度から遠慮のないご意見をいただきましたと思います。

事務局 ます、広報の見直し
の経過を報告します。

現行の月二回発行のスケジュールでは、一方面的な市のお知らせだけの紙面作りになっているのが現状です。広報とはもつと市民の顔や意見が出て来るものが本来の姿ではないかと思えます。月一回にす

れば十分な取材時間があり、また、二色刷りもできます。内容を充実し、しかも二色刷りにすることにより視覚に訴えられる広報もできると考え、月一回発行というに決まったわけです。

細木 連絡員としては月二回は回数が多いという気がしますが、配り終えたと思ったらもう次の分が来たかという感じですね。会社勤めをしている方が連絡員になった場合は時間的にもよけい多いという気がするんではないですか。

委員長 今までの広報についてもお気付きの点をお聞かせください。

紙井 六年前に南国市に来たとき、広報を届けてもらい、すこく産医の住民になったという実感があり、非常に市を身近に感じられたんですが、よそに行きましたからほとんど



中司滋寿子さん
白木谷にお住まいで、食生活改善グループなどで活躍されています。



山本桂さん
十市にお住まい。農業をされており、4Hクラブでも活躍されています。



ど広報を読んだ記憶がないんです。見た目はよその方が立派で大きくできていますが、私は親しみやすさから言うとな国市の方がよかったです。親しみやすさ、読みやすいので身近な必要なことがみんな載っているというのが広報の一番いいところじゃないかな。そういった観点からすれば南国市の広報はなかなかいい方じゃないかなと思えます。

植野 PTAの広報は学校であつた行事を主に出していましたが、正月などは各学年の方々に今年の抱負などを書いていただいています。ただマンネリ化してきて偏っているんです。

足りなかったのは子供のページ

委員長 広報も同じです。新しい広報には子供のページを取り入れたいと思えます。大人だけのものじゃなくて子供たちにも見ってもらえるような広報に。

細木 自分自身、関係のある記事以外はあまり読んでいませんが、広報を読む習慣をつけることが必要ではないでしょうか。読者の側に立つて心のこもった、読みやすい紙面づくりをしてもらいたいですね。読者と互いに協力しあって広報を作っていくことが大事だと思えます。その面で月一回にするということには賛成です。

委員長 内容が充実するというところによって賛成ということですね。

細木 そうです。内容が充実し、これまでよりも市民の意見を組み入れてもらうことを

期待します。
中司 細木さんが読む習慣とおっしゃいましたが、市民に喜んで読んでもらえる広報が一番大事だと思います。子供のページを作ることで、子供にも広報を読む習慣をつけれるのではないのでしょうか。その子が大きくなって読んでもらうためには大事だと思えます。

事務局 それぞれのご家庭で読まれる層はどうなっていますか。

細木 どちらかというとお年寄りのが読まれているようです。若い人はあまり読んでないみたいです。

中司 最近ほとんどもののがカラーになっていきます。それと比べると広報は見劣りするといえますか、目がいかなくなってしまうんです。

山本 表紙の写真だけでもカラーになると違いますね。
委員長 そうですね。市の広報だけが旧態依然で代り映えがせず、市民からおしかりを受けても当然だと思います。予算の面からカラーは無理でも、二色にするだけで感じが変わってきます。

事務局 月一回発行だと、A4版の二十ページで二色刷りだと現行の予算でできます。



細木隆夫さん
大畑にお住まいで、長い間家族で広報委員を務められています。





石木二三さん(田村)

配る人も二回じゃ大変でしょう

広報は、見出しをさっと見て自分に関係のあるところは読んでいます。それから裏表紙の保健やこみのカレンダーは必ず見て確認しておきます。広報が月二回から一回に変わることは賛成です。広報を配っている人も二回では大変でしょう。ページ数を増やし、口身を充実すれば一回で十分です。

仕事もあり、あまり市役所に行くこともないので、市のことは知るためには広報しかありません。これからは市役所のことと市内の動きを広く知らせて欲しいと思います。



西和田克美さん(後免町)

よく読む議会記事

広報連絡員をしています。広報を楽しみにしている人はいれば、そうでない人もいますね。

私はよく読んでいますよ。特に議会なんかは暇がなくて聞きに行くこともできないので楽しみにしています。それと最後にあるこみのカレンダーや休日在宅医なんかは注意して見えています。こみ問題のことは清掃作業のときだけはやなくて毎月載せて欲しいですね。

中身が減らないなら一回でかまわないと思いますよ。二色にもなるということですね。広報を期待しています。



植野純子さん
長岡にお住まいで、PTAで広報部の部長を務められています。



取り上げてほしい読者の疑問

事務局 レイアウトについてのご意見は、紙井、いつも最後にこみと医療の関係、その前に移動図書館というように何を知らなければどこをめぐればいいのかいつも決まっているというのはなかなか素敵なんじゃないかと思えます。

委員長 やつぱり指定席というのがいいですね。

事務局 植野さんは、PTAの広報もどうしてもマンネリに陥るといって話でしたが、植野 作っていただけるとしてもマンネリ化というが、決まったことを主体として書くことが多くなってくるんです。

細木 新しい広報の構成は決まっていますか。

事務局 おおむね決まっています。今までと変わって来るのは主に市民のページになります。いろいろ市民の方から投稿いただいたりして市民のページを構成したいと思っています。やはり違った視点から投稿していただくというメリハリもでき心算にしています。

山本 やつぱり子供からお年寄りまで家族全員に読んでほしいです。



藤田直子さん(大浦)

もっと市民の声を反映させて

四月号から、今まで続いていた広報なんこの月二回発行が、中身もぐんとグレードアップして月一回になるということは、私個人としては大賛成です。

今までの広報は、行政からの行事、出来事などがメインで市民の生の声というものが行政と市民のバイブ受としての広報に反映されていなかったように見受けられます。

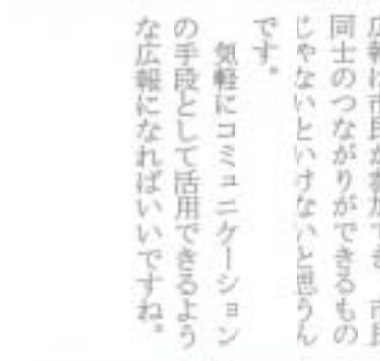
今後の広報は、もっと市民一人ひとりの声が反映されるようなものにしていただければと思います。

事務局 市民の生活に還元できるものは、メディアとしての広報を使っていただきたい。市民社会が活性化するように広報を作っていくかと思

細木 ちょっとしたこと、疑問に思っていることがたくさんあると思います。そういうところを引き出す努力をしてみたいですね。

大事なのは身近さ

事務局 市民の生活に還元できるものは、メディアとしての広報を使っていただきたい。市民社会が活性化するように広報を作っていくかと思



鳥嶋敬重さん(国分)

市民参加の広報を

広報が月一回になるのは大賛成です。その分取材の時間が増えるので中身が濃くなると思います。

毎号必ず目を通していただきますが、これまでの広報は市役所からのお知らせを一方的に伝えるだけでした。これからの広報は市民が参加でき、市民同士のつながりができるものじゃないかなと思います。

気軽にコミュニケーションの手段として活用できるように広報になればいいですね。



紙井泰典さん
十市パークタウンにお住まいで、以前は市外で生活されました。



料理の欄をつくって

広報を読んでいると、いつも記事がいつしよでパターン化しているようです。今よりも中身が充実するのなら、月一回にした方がいいんじゃないですか。

小笹雅子さん(大浦)

よく読んでいるのは、行政のこととお知らせです。市役所に行くこともあまりないので、主に市政の動きを知るために広報を読んでいます。

